

# 日本語(国語) 【中3】 指導カリキュラム

## 日本語テキスト



## ユニット・指導内容・指導単元一覧表

- 1ユニットの指導モジュール配分は、日本語力のステップに応じて比率を決める。  
現在の日本語カレベルと現在の学年の学習内容、1ユニット・モジュール配分比率は、概ね下記のようにする。

	ステップに応じた指導内容	:	現在の学年学習内容
【S1】	8	:	2
【S2】	7	:	3
【S3】	5	:	5
【S4】	2	:	8

### 『指導ユニット・モジュール数配分例』

31	:	8	(モジュール数39モジュールの場合)
19	:	8	(モジュール数27モジュールの場合)
9	:	9	(モジュール数18モジュールの場合)
2	:	7	(モジュール数 9モジュールの場合)

# 日本語(国語)【中3】4月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中3 4月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S4】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7

ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
<p>春に 繰り返し使われる言葉 比喩表現 『語彙』</p>	<p>「作者の思いを捉え、表現の特徴を生かしながら朗読しよう。」 ◎文脈の中における語句の効果的な使い方など表現上の工夫に注意して読む。</p> <p>【S1】 作品を通読し、特徴的な言葉や表現の工夫などについて気づいたことを話し合う。 ・ 繰り返し使われる言葉や比喩表現などを抜き出す。 【S2】 詩に込められた作者の人間や自然に対する思いを読み取る。 ・ 4回繰り返される「この気持ち」の内容を考える。 【S3】 表現の特徴を踏まえて、自分の思いを込めて朗読する。</p>
<p>【語彙・表現】 この気持ちはなんだろう 目に見えないエネルギーの流れが 大地からあしのうらを伝わって ぼくの腹へ胸へそうしてのどへ 声にならないさけびとなってこみあげる この気持ちはなんだろう 枝の先のふくらんだ新芽が心をつつく よろこびだ しかしかなしみでもある いらだちだ しかもやすらぎがある あこがれだ そしていかりがかくれている 心のダムにせきとめられ よどみ渦まきせめぎあい</p> <p>【新出漢字】 渦潮</p>	<p>いまあふれようとする この気持ちはなんだろう あの空のあの青に手をひたしたい まだ会ったことのないすべての人と 会ってみたい話してみたい あしたとあさってが一度にくるといい ぼくはもどかしい 地平線のかなたへと歩きつづけたい そのくせこの草の上でじっとしていたい 大声でだれかを呼びたい そのくせひとり黙っていたい この気持ちはなんだろう</p>
<p>握手 登場人物の人物像や心情 『読む』</p>	<p>◎作品中の表現や、登場人物の置かれた状況、言動に着目して人物像を捉える。</p> <p>【S1】 作品を通読し、人物どうしの関係や置かれた状況を確認する。 ・ 「現在」と「回想」とを重ねていく構成であることに注意する。 【S2】 会話文の言葉やエピソードに着目する。 【S3】 登場人物の人物像や心情を捉える。 ・ 3回の握手が交わされた状況を整理し、握手に込められた「わたし」と「ルロイ修道士」の思いを考える。</p>

【語彙・表現】

修道士 達者 年季が入る 第二次大戦 天使の十戒 児童養護施設 気前がいい 聖人伝 ケベック プレーンオムレツ 交換船  
精を出す 奇妙 戒律 国際法 …… (の) わりに 闇市 せわしい こたえる 地道 いとまごい 平凡 腕前 腕が立つ 腕に  
よりをかける 腕を振るう むやみに 一周忌

【新出漢字】

監査 冗長 洗濯 家督 同姓 穏健 帝王 忌中 鶏舎 泥水 爪を切る 傲然 墾田 捜査

【新出音訓】

代物 分割 遺言

【新出漢字】

慎重 懇願 徹底 撤回 懐妊 妊娠 満悦 情弱 憩いの場 拘禁 挙措

季節のしおり 春

◎春の季語や、春の情景を詠んだ和歌や俳句などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。

春の季語  
『季節』

【語彙・表現】

梅一輪一輪ほどの暖かさ

石走る垂水の上のさわらびの萌え出づる春になりけるかも

世の中に絶えて桜のなかりせば春の心はのどけからまし

学んで時にこれを習ふ  
—「論語」から

◎漢文の言い回しに注意して、文脈における語句の意味を捉えて読み、人間の生き方についての孔子の考え方を自分たちの生活と関連づけて考える。

○「論語」の古典における位置づけを知り、「論語」に親しむ。

漢文「論語」  
『古文』

【S1】「論語」という作品について知る。

【S2】書き下し文を、漢文の言い回しに注意して、繰り返し音読する。

【S3】「論語」の教材作品を読み、孔子のものの見方や考え方を読み取る。

【語彙・表現】

子曰はく、「学んで時にこれを習ふ、また説はしからずや。朋遠方より来たるあり、また楽しからずや。人知らずして慍みず、また君子ならずや。」と。

子曰はく、「故きを温めて新しきを知れば、もって師たるべし。」と。

子曰はく、「学んで思はざれば則ち罔し。思ひて学ばざれば則ち殆し。」と。

子曰はく、「これを知る者は、これを好む者に如かず。これを好む者は、これを楽しむ者に如かず。」と。

子 時に 習ふ また説はしからずや 朋 人知らずして 慍みず 君子 故きを温めて 新しきを知れば もって師たるべし 思はざれば 罔し 思ひて学ばざれば 殆し これを知る者 ……に如かず

# 日本語(国語)【中3】5月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中3 5月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S4】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
評価しながら聞く  ものの見方や考え方 『話す』 『聞く』	◎ 自分の考えと比較し評価しながら相手の考えを聞き、自分のものの見方や考え方、表現のしかたに役立てる。  【S1】 「ペットの飼育」について話し合っている様子を、自分の考えと比較し評価しながら聞く。 【S2】 「評価メモ例」を参考に、メモを取りながら聞く。
-----	
【語彙・表現】 ①初めに、話題に対して自分の考えをもつ。 ②発言者の意見を評価する。 ・意見をはっきり示しているか。 ・意見と根拠の関係は矛盾して いないか。 ・根拠は、客観的、かつ具体的か。 ・気づいた点や疑問点はないか。 ③自分の考えと比較する。 ・考えが深まった場合、変わった場合は、きっかけになった発言と、その理由もメモしておく。	
社会との関わりを伝えよう 相手や目的に応じたスピーチをする  スピーチ 『話す』	◎自分の体験や知識を整理して、話す内容を決める。 ◎話す相手や目的を意識して、資料を活用したり、話し方を工夫したりする。  【S1】 スピーチの話題を考える。 ・自分の社会生活を振り返り、印象深いものなどを話題にする。 【S2】 スピーチの相手と目的を考える。 ・場面・相手・目的について考え、必要に応じて話題を考え直す。 【S3】 スピーチの内容と構成を考える。 ・設定した場面・相手・目的にふさわしいスピーチになるように、話す内容や順序、言葉遣いや説明のしかたを考え、構成メモにまとめる。 【S4】 スピーチをする。
漢字1 熟語の読み方  音と訓 『漢字』	◎熟語に関する知識を広げ、文や文章の中で読んだり使ったりする。  【S1】 漢字二字の熟語には、音または訓を重ねる読み方と、音と訓を組み合わせた読み方があることを知る。 【S2】 教材文を読み、さまざまな熟語の読み方について理解する。

【S3】練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。

【語彙・表現】

熟語は、上の漢字が音読みなら下の漢字も音読み、また、上の漢字が訓読みなら下の漢字も訓読みになることが多い。

音と音

着陸（チャク・リク） 整頓（セイ・トン） 哲学（テツ・ガク） 頒布（ハン・プ） など

訓と訓

着物（き・もの） 長袖（なが・そで） 外堀（そと・ぼり） 枕元（まくら・もと） など

熟語の上下の漢字を、音と訓を組み合わせて読むものもある。

「重箱」は、「重」を音、「箱」を訓で読む。このように、上の漢字を音、下の漢字を訓で読むことを重箱読みという。

重箱読み

仕事（シ・ごと） 茶釜（チャ・がま） 両脇（リョウ・わき） 別棟（ベツ・むね） など

また、「湯桶」は、「湯」を訓、「桶」を音で読む。このように、上の漢字を訓、下の漢字を音で読むことを湯桶読みという。

湯桶読み

夕刊（ゆう・カン） 手本（て・ホン） 荷物（に・モツ） 枠内（わく・ナイ） など

特別な読み方

熟語の中には、漢字一字ごとに音や訓で読むのではなく、一つのまとまりとして特別な読み方をするものがある。この特別な読み方を熟字訓とよぶ。

明日（あす） 今年（ことし） 五月雨（さみだれ） 白髪（しらが） 梅雨（つゆ） 吹雪（ふぶき） など

複数の読み方をする熟語

- ・年月（ネンゲツ／とし・つき）
- ・明日（ミョウニチ／あす）
- ・上手（うわ・て） ……彼のほうが一枚上手だ。  
（かみ・て） ……舞台の上手に立つ。  
（じょうず） ……姉は上手な字を書く。

「年月」や「明日」は、いずれの読み方でも同じ意味を表すが、「上手」は、読み方によって意味が異なる。このような熟語は、文脈に注意して読もう。

【新出漢字】

堀 枠 粹 患 頓 枕 潟 瞳 療 哲 釜 藍 謁 碁 頒 脇 瀬 繭 硫 袖 棟 錦 錠

# 日本語(国語)【中3】6月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中3 6月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 42：10 【S2】 25：11 【S3】 12：12 【S4】 3：13

ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
月の起源を探る 文章全体の構成 『文』	◎語句の使い方や説明の順序、図の使い方に着目して、内容を捉える。 【S1】 全文を通読し、文章と図の対応について確認する。 ・ 筆者が話題にしている「仮説」について、それぞれに対応した文章と図の関連を考える。 【S2】 説明の順序やまとまりの役割を考え、文章全体の構成を捉える。 ・ 「古典的仮説」について、それぞれの要点と現在それがほぼ否定されている理由をまとめる。 ・ どのような説明の順序や構成によって「巨大衝突説」を「最も有力な説」と位置づけているのかを考える。
【語彙・表現】 惑星 衛星 公転 アポロ計画 重力 万有引力 太陽系 特異 自転 致命的 そもそも 提唱 仮定 プログラム 図らずも 改訂 【新出漢字】 核心 盤石 壯観 【新出漢字】 上旬 水晶 酢の物 酵母 乳酪 晩酌 滋味 溝が深まる 淑女 佳作 顕示 覇気 賦課	
文章の形態を選んで書く 文章の形態 『文』	◎文章の形態の特徴を知り、それぞれの形態の特徴を踏まえた表現の工夫をする。 【S1】 「体育祭での出来事を、さまざまな形態で表現した例」を参考に、それぞれの形態の特徴について知る。 【S2】 文章の形態の特徴に注意して文章を書く。
【語彙・表現】 ・物語 時・場所・登場人物などを具体的に設定し、心情・情景の描写を工夫する。 ・報道文 5W1Hを意識し、事実や引用部分と、自分の考えや感想を区別して書く。 ・意見文 意見や立場を明確に示し、根拠となる体験や事実を具体的に書く。 ・随筆 自分の経験や、経験から得た感動、発見を描写を工夫して書く。 ・短歌・俳句・詩 表現技法を工夫し、感動や思いを印象的な言葉で表現する。	
「想いのリレー」に加わろう 「情報発信」について考えよう	◎語句の使い方に気をつけながら現代のメディアの特徴を読み取り、情報発信の意義と注意点について考えを深める。

<p>メディアの特徴 『読む』</p>	<p>【S1】全文を通読し、さまざまなメディアの特徴を考える。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新聞、テレビ、ソーシャルメディアの特徴について意見を述べる。</li> <li>・ 本文中からソーシャルメディアの長所と短所を捉え、「想いのリレー」という言葉の意味を考える。</li> </ul> 【S2】クラスでできる「情報発信」について話し合う。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身の回りの出来事やお知らせなど、どんな情報をどんな手段で発信できるかを考える。</li> <li>・ 考えた情報の内容と発信手段について、どんなことに気をつけなければならないか、意見を述べる。</li> </ul> </p>
<p>【語彙・表現】  東日本大震災 動画サイト グーテンベルク 木版印刷 ブログ ソーシャルネットワーキングサービス 重大な問題 デマ 検索エンジン</p> <p>【新出漢字】 脈絡 紛失</p>	
<p>言葉1 和語・漢語・外来語 『語彙』</p>	<p>◎和語・漢語・外来語の使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>【S1】教材文の導入の例を基に、和語・漢語・外来語から受ける印象の違いについて考える。  【S2】和語・漢語・外来語・混種語の性質や特徴について理解する。</p>
<p>【語彙・表現】</p> <p>和語 もともと日本で使われていた語を和語（大和言葉）という。  暮らし・言葉・侍・宵・滝つぼ・桑畑・少し・もし</p> <p>漢語 漢字の音読みが使われる語を漢語という。  生活・言語・訴訟・債権・年俸・破綻・隠蔽・進捗</p> <p>外来語 漢語以外で、外国語から日本語に取り入れられた語を外来語という。  ライフ・ボタン・ピザ・イクラ・メモ・シンプル・ポジティブ・バリアフリー・バイオテクノロジー</p> <p>混種語 和語・漢語・外来語が組み合わさってできた語を混種語という。  花火大会・卸売り業（和語＋漢語）古タイヤ・右サイド（和語＋外来語）  レポート用紙・インスタント食品（外来語＋漢語）</p> <p>【新出漢字】  訟 捗 侍 債 欧 宵 俸 卸 滝 綻 桑 蔽</p>	

# 日本語(国語)【中3】7月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中3 7月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 **【S1】 21：5** **【S2】 13：5** **【S3】 6：6** **【S4】 2：6**

ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
俳句の可能性 俳句を味わう  俳句 『詩』	◎筆者のものの見方や感じ方、表現のしかたなどを読み味わい、俳句の世界に親しむ。  <b>【S1】</b> 全文を通読する。 <b>【S2】</b> 俳句の特色などを知る。 <b>【S3】</b> 五句それぞれに込められた心情や情景を想像する。 ・ 俳句に関する専門用語の意味を確認する。 ・ 筆者のものの見方や感じ方が表れている語句や表現などの意味を確認する。 <b>【S4】</b> それぞれの俳句に表現されている心情や情景などを捉え、朗読する。
<p>【語彙・表現】 どの子にも涼しく風の吹く日かな いくたびも雪の深さを尋ねけり 跳箱の突き手一瞬冬が来る たんぽぽのぼ                      ぼと架毛のたちにけり 分け入っても分け入っても青い山                      散文 決まった形式や音のリズムをもたない普通の文章。 韻文 短歌や俳句など、一定の形式や音のリズムをもった文章。                      歳時記 季節の言葉をまとめた本。俳句では季語を分類し、解説や例句を付けたものをいう。                      切れ字 俳句の中で句の切れ目に使う言葉。「や」「かな」「けり」など。                      行脚 僧が修行のために諸国を巡り歩くこと。また、ある目的で諸地方を旅すること。                      音律 音の調子。ここでは、言葉のリズムについていっている。                      かきたてる 断念 感性 ひたすら</p> <p>赤い椿白い椿と落ちにけり                      バスを待ち大路の春をうたがはず                      萬緑の中や吾子の齒生え初むる                      飛び込みのもう真っ白な泡の中                      桐一葉夏日当りながら落ちにけり                      金剛の露ひとつぶや石の上                      冬菊のまとふはおのがひかりのみ                      日と月のごとく二輪の寒牡丹                      咳をしても一人</p> <p>【新出漢字】 釈然</p>	
言葉を選ぼう  言葉の性質 『語彙』	◎時間の経過によって変化した言葉や世代によって使われ方が違う言葉を見つけ、その違いを理解するとともに、調べた内容について相手にわかりやすい説明になるように構成を工夫して書く。  <b>【S1】</b> 教材文を通読する。 <b>【S2】</b> 言葉の性質について知る。 <b>【S3】</b> 日常生活の中で、世代間で意味や使い方が異なる言葉や限られた世代だけが使っていると思われる言葉を探す。
「批評」の言葉をためる	◎文脈における語句の意味に気をつけながら「批評する言葉」についての筆者の考えを読み取り、自分の考えを深める。

<p>文脈における語句の意味 『語彙』</p>	<p>【S1】全文を通読する。 【S2】筆者の考えを読み取る。 【S3】「批判」「批評」「言葉のキャッチボール」「自己ルール」「感受性」という言葉が、文脈においてそれぞれどのような意味で使われているかを考える。 【S4】「批評し合う関係」がなぜ大切なのか、筆者の考えを整理する。</p>
<p>【語彙・表現】 成熟 真率 美意識 内実 おろそか</p>	
<p>文法への扉 1 すいかは幾つ必要？  文の成分の順序や構成 『文法』</p>	<p>◎文の成分の順序や構成など、文法についての理解を深め、日常生活や学校生活の中での表現や読解に生かす。</p> <p>【S1】教材文を読む。 【S2】文法的な観点から表現を見直すことの意義を確認する。 ・導入の課題に取り組み、果物の個数について、母と息子の間で誤解が生まれた原因について考える。 ・誤解の原因を指摘し、母親はどのように伝えるべきだったのか考える。 【S3】文節・連文節の係り受けなどの既習の文法について理解を深め、文法の知識を表現や読解に生かすポイントを確認する。 【S4】練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。</p>
<p>高瀬舟  文章の展開や場面・登場人物の設定</p>	<p>◎目的をもって本を読み、表現上の特徴、文章の展開や場面・登場人物の設定などを捉えて、自分の考えを広げたり深めたりする。</p> <p>【S1】「高瀬舟」を読み、近代文学の表現を味わったり、感想を交流したりする。 【S2】喜助と庄兵衛は、「生きる」ということについてどのように考えているか話し合う。</p>
<p>季節のしおり 夏  夏の季語 『季節』</p>	<p>◎夏の季語や、夏の情景を詠んだ和歌や俳句などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。</p>
<p>【語彙・表現】 夏の夜はまだよひながら明けぬるを雲のいづこに月やどるらむ 滝落ちて群青世界とどろけり 夏河を越すうれしさよ手に草履</p> <p>薄暑 はくしよ 初夏、5月頃の、少し汗ばむ程度の暑さの頃をいう。 麦の秋 むぎのあき 夏の初めの麦を刈り入れる時期。「むぎあき」ともいう。「麦秋」という言葉もある。 風薫る かぜかおる 初夏の青葉が薫るように緩やかに風が吹くさまをいう。薫風ともいう。 ・</p>	

# 日本語(国語)【中3】9月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中3 9月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 **【S1】 31：8** **【S4】 19：8** **【S3】 9：9** **【S4】 2：7**

ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
<p>挨拶 原爆の写真によせて</p> <p>『詩』</p>	<p>◎比喩や象徴的な表現に着目し、作者のものの見方や考え方を捉える。</p> <p>【S1/S2】 作品を通読し、リズムや表現の工夫などについて気づいたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繰り返し出てくる「顔」という表現に着目し、それぞれ誰を表現しているのか確認する。</li> </ul> <p>【S3/S4】 語句や表現に込められた意味を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「午前八時一五分は／毎朝やってくる」に作者が込めた意味。</li> <li>・ 文脈における「油断」の意味。</li> </ul>
<p>あ、 この焼けただれた顔は 一九四五年八月六日 その時広島にいた人 二五万の焼けただれのひとつ</p> <p>すでに此の世にないもの</p> <p>とはいえ 友よ</p> <p>向き合った互の顔を も一度見直そう 戦火の跡もとどめぬ すこやかな今日の顔 すがすがしい朝の顔を</p> <p>【注意する語句】 すがすがしい りつぜん きわどい 見きわめる 油断</p>	<p>その顔の中に明日の表情をさがすとき 私はりつぜんとするのだ</p> <p>地球が原爆を数百個所持して 生と死のきわどい淵を歩くとき なぜそんなにも安らかに あなたは美しいのか</p> <p>しずかに耳を澄ませ 何かが近づいてきはしないか 見きわめなければならないものは目の前に えり分けなければならないものは 手の中にある 午前八時一五分は 毎朝やってくる</p> <p>一九四五年八月六日の朝 一瞬にして死んだ二五万人の人すべて いま在る あなたの如く 私の如く やすらかに 美しく 油断していた。</p>
<p>故郷</p> <p>『読む』</p>	<p>◎表現や場面、登場人物の設定に着目して、内容を読み深める。</p> <p>【S1/S2】 作品を通読し、場面設定や登場人物の人物像、人間関係を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「私」の現在の場面と回想の場面、「私」と他の登場人物との関係を確認する。</li> </ul> <p>【S3】 場面や登場人物の設定に着目し、登場人物の心情や関係の変化を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 場面や登場人物の設定を考える。</li> <li>・ 故郷や我が家の様子、登場人物などについて、思い出の様子と現在の様子との変化が表われ</li> </ul>

た部分を抜き出して比べる。

- ・ 「私」と「ルントウ」との関係が変わった理由について考える。
- ※ 会話文の中の「……」に込められた話し手の心情を想像させる。
- 【S4】 作品から、時代や社会の変化の中での人と人との関わりについて考え、自分の意見をもつ。
- ・ 「希望」という表現に着目して読み、「私」がどんな社会を望んでいたのかについて考え、意見を交流する。

【語彙・表現】二千里の果て 中国の一里は、約五百メートル。ここでは、はるかに遠く離れた所、の意。(魯迅の故郷は浙江省紹興だが、彼は当時北京に住んでいた。) 苦 スゲやカヤなどの草で編んだ、粗いむしろのようなもの。舟や小屋に掛けて雨露を防ぐ。一族で住んでいた 中国では、近代に入ってからでも大家族制度が残っていて、大きな家に家長を中心として数家族が同居しているところもあった。 わびしい 込み上げる 心境 旧暦 中国は一九一二年に太陽暦を採用したが、民間では、旧暦(太陰暦)を使う習慣が残っていた。 やれ茎 折れて干からびた茎。 チャー 穴熊に似た動物。 節季 端午(五月五日)、中秋(八月十五日)、歳末の三回の決算期のこと。 閏月 旧暦の平年は三百五十四日なので、季節とのずれを調節するために、数年おきに、ある月を繰り返す。この繰り返された月をいう。 五行の「土」が欠けている 生まれた年・月・日・時の四つに干支を当てたものを、「八字」という。その八字の中に五行(木・火・土・金・水)の土に属する干(戊・己)も支(丑・辰・未・戌)も含まれていないこと。 かたわら 紺碧 吟味 雇い人 城内 人の多く集まっている町の中。中国では町全体が城壁で囲まれていた。 タオチー チアオチー、ランベイと共に、畑を荒らす小鳥。 艶 溺愛 結わえる(ゆわえる) 穴熊 畜生 ことづける 堀 スカートをはかないズボン姿 ズボンの上にひだのあるスカートを着けるのが、当時の中国女性の一般的な服装であった。労働のときなどは「スカートをはかないズボン姿」になった。 豆腐屋小町 原文は「豆腐西施」。西施は古代中国の美女。平安時代の歌人小野小町が絶世の美女だったことから、美しい娘のことを「小町」というようになったが、それを詠語として当てたもの。 塗る 不服 蔑む 嘲る 冷笑 苦笑・微笑・失笑 財布(サイフ) 駄賃 思案 うやうやしい 旦那様 兵隊、匪賊、役人、地主 当時の中国で、民衆の敵とされていた代表的なもの。「匪賊」は、集団で略奪などを行う盗賊。 はにかむ 物騒 境遇 寄ってたかって 香炉と燭台 香をたくのに用いる容器と、ろうそくを立てる台。いずれも祭具。 とりとめのない 纏足 昔の中国の風習で、女子の足が大きくならないように、幼時から布を堅く巻き付けておくこと。ここでは、そうして小さくした足のこと。 胸をつかれる 胸が締めつけられる 胸がすく 胸に迫る 名残惜しい 気がめいる 気がもめる 気が置けない 気が気でない 打ちひしぐ 靴 慕う 麻痺 野放図 崇拜

【新出漢字】 策に溺れる 旦那 閑散 熊手 靴下 紺色 畜産 慕情 詩吟 土堀 麻糸 雇用 塗装 崇高 色艶 駄作

【新出音訓】 結わえる(ゆわえる) 財布(サイフ)

【新出漢字】 刹那 錬金術 凹面鏡 凸レンズ 併せ持つ 思いが募る 珠算 大佐 模倣 歌仙 彫塑 墮落 墜落

推敲して文章を整える

『書く』

◎書いた文章を読み返し、文章全体を整える。

【S1/S2】 これまでの学習を振り返り、推敲することの意義を確認する。

【S3/S4】 課題文を推敲し、読みやすくわかりやすい文章にする観点を押さえる。

- ・ ①～④(P.123)の指示に従って課題文を推敲する。

# 日本語(国語)【中3】10月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中3 10月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 **【S1】 42：10** **【S2】 25：11** **【S3】 12：12** **【S4】 3：13**

ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
新聞の社説を比較して読もう	<p>◎社説を読み、主張や論理の展開、表現のしかたを捉える。                  ◎一つの話題に関する複数の文章を読み比べ、主張や構成について評価し、ものの見方や考え方を広げる。                  ○構成や論理の展開を工夫し、資料を適切に引用して意見を主張する文章を書く。                  ★論説や報道などに盛り込まれた情報を比較して読む。</p> <p>【S1】 社説を読み、わからない言葉を調べながら、社説の話題を確認する。                  【S2】 「見出し」「主張」「論理の展開」「表現・語句」で、気づいたことを表にまとめる。                  【S3】 二つの社説を読み比べて、内容や表現を整理し、主張や論理の展開のしかたを評価する。</p>
<p>【新出漢字】 廷 融</p>	
言葉2 慣用句・ことわざ・故事成語	<p>◎慣用句・ことわざ・故事成語などの知識を広げる。</p> <p>【S1】 導入の例から、一まとまりで決まった意味をもつ言葉に興味をもつ。                  【S2】 教材文を読み、慣用句・ことわざ・故事成語の特徴や性質について理解する。                  【S3】 ことわざや故事成語の意味を調べる。                  【S4】 慣用句を使って短文を作る。</p>
<p>【語彙・表現】 「たぬき寝入り」「猫の手も借りたい」「頭が下がる」「胸を張る」「心に刻む」「棚に上げる」「襟を正す」「すずめの涙」「花を持たせる」「ピリオドを打つ」「肩の荷が下りる」「気が気でない」「息をのむ」</p> <p>【新出漢字】 猿 駒 虎 呉                  【新出音訓】 下 (もと)</p>	
漢字2 漢字の造語力	<p>◎漢字の造語力について知り、語彙を豊かにし、文や文章の中で使うことができる。</p> <p>【S1】 導入の文章を読み、新しい日本語が考え出された経緯を知る。                  【S2】 教材文を読み、漢字の造語力について知る。                  ・翻訳語と新しい語という側面から、表意文字として漢字の特徴を考える。                  【S3/S4】 練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。</p>
<p>【語彙・表現】 翻訳語 芸術 科学 文化 中食 公助 猛暑日 国連 国際連合 最高裁 最高裁判所                  衆院選 衆議院議員総選挙</p>	
<p>【新出漢字】 肅 逮 罷 憤 耗 剛 嬢 鎮 庸 隸 翻 騰 舗 漸 逐 克 契 曾 枢 隆 庶 甚 猶 津 衷 叙 祥</p>	

侮 伎	
季節のしおり 秋	◎ 秋の季語や、秋の情景を詠んだ和歌や俳句などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。
【語彙・表現】 星月夜 月のない秋の夜、輝く星の光が月のように明るいこと。「ほしづくよ」ともいう。 野分 秋に吹き荒れる台風などの強風。野の草を分けて吹くという意味。 紅葉狩り 紅葉の美しい場所を山野に訪ね、観賞すること。観楓、紅葉見のこと。	
音読を楽しもう 古今和歌集 仮名序	◎ 比喩表現などの表現上の工夫に注意しながら「古今和歌集 仮名序」の冒頭部分を音読し、古典の世界に親しむ。  【S1/S2】 「古今和歌集 仮名序」冒頭部分を音読する。 【S3/S4】 歴史的仮名遣いに注意し、音読を通して古文の言葉の響きやリズムを味わう。
【語彙・表現】 やまどうた 人の心を種として、よろづの言の葉とぞなれりける 繁きものなれば 言ひ出せるなり 花に鳴く鶯、水にすむ蛙	
君待つと 一万葉・古今・新古今	◎ 効果的な表現や語句の使い方に着目して、それぞれの和歌を読み味わう。 ◎ 歴史的な背景に注意して古典の和歌を読み、昔の人の心情や情景を読み味わうとともに、和歌に歌われている人間や自然などについて、自分の考えをもつ。  【S1/S2】 和歌を声に出して読み、言葉の響きやリズムを楽しむ。 【S3/S4】 「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の歌を比較し、和歌に表れた作者の心情や情景を想像して、感じたことを話し合う。
【新出音訓】 古今（こきん） 衣（ころも） 貴い（とうとい） 頭（かしら）	
夏草 —「おくのほそ道」から	◎ 古典の文章を、表現のしかたや文体の特徴に着目して読み味わう。 ◎ 歴史的背景などを考えながら、作者のものの見方や感じ方を読み取り、自分の考えをもつ。  【S1】 地の文と俳句の組み合わせによる構成の効果を踏まえ、全文を声に出して読む。 【S2】 全文を読み、芭蕉のものの見方や感じ方を読み取る。 ・芭蕉の「旅」についての考えを抜き出すとともに、平泉で芭蕉が感じたことを考える。 【S3/S4】 本文中の四つの俳句から、自分の心に響く俳句を一句選び、理由などについて述べる。
【新出漢字】 莊重	
古典を心の中に	◎ 古典作品について書かれた文章を読み、自分の考えを深め、古典の世界に親しむ。 【S1/S2】 本文を通読する。 【S3/S4】 古典を通して、人と出会い、さまざまな世界を体験できることを知る。

# 日本語(国語)【中3】 11月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中3 11月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 **【S1】 42：10** **【S2】 25：11** **【S3】 12：12** **【S4】 3：13**

ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
作られた「物語」を超えて	<p>◎筆者の考えを表す語句や論理の展開に着目して主張を捉え、表現のしかたについて評価する。                  ◎筆者のものの見方や考え方を踏まえて、人間、社会、自然などについて自分の考えをもつ。</p> <p><b>【S1】</b> 本文を通読する。  <b>【S2】</b> 興味をもったことを挙げ、筆者がゴリラの事例を挙げた意図を確かめる。  <b>【S3】</b> ゴリラの事例を通して語られる人間一般の性質を捉える。  <b>【S4】</b> 論理の展開に注意しながら、筆者の主張を要約する。</p>
<p>【語彙・表現】 銃 権化 勇壮 蓄積 脚色 増幅 排除</p>	
<p>【新出漢字】 銃 ジュウ 銃口</p>	
<p>【漢字の読み】</p> <p>①博物館で<u>獵銃</u>を見る。 [ ]</p> <p>②<u>犬猿</u>の仲。 [ ]</p> <p>③<u>法廷</u>で争う。 [ ]</p> <p>④<u>東西文化</u>の融合。 [ ]</p>	
<p>【同じ音読みの漢字】</p> <p>①ゴ〈呉・娛〉(ア) [ ] 楽 (イ) [ ] 服</p> <p>②ジュ〈需・儒〉(ア) [ ] 教 (イ) [ ] 要</p> <p>③ホ〈哺・捕〉(ア) [ ] 獲 (イ) [ ] 乳類</p> <p>④カイ〈諧・楷〉(ア) [ ] 書 (イ) 俳 [ ]</p>	
<p>【音読み】</p> <p>ア親密 イ分泌 ウ蜂蜜 ア某所 イ媒介 ウ参謀</p> <p>ア補填 イ慎重 ウ真実 ア訃報 イ素朴 ウ赴任</p> <p>ア願望 イ頑固 ウ煩雑 ア征服 イ証明 ウ正確</p>	
<p>【同じ部首の漢字】</p> <p>①〈ワ〉 冗長 [ ] 王冠 [ ] 冥福 [ ]</p> <p>②〈ロ〉 叱責 [ ] 呪文 [ ] 嗅覚 [ ]</p> <p>③〈糸〉 緩慢 [ ] 瑞緒 [ ] 紛糾 [ ]</p> <p>④〈雨〉 濃霧 [ ] 靈感 [ ] 零細 [ ]</p>	

【熟語の読み方】

- ①歳暮 [ ] ( )
- ②石高 [ ] ( )
- ③新盆 [ ] ( )
- ④小銭 [ ] ( )

【新出漢字】

娯楽映画 需給 儒学 哺乳瓶 俳諧 花の蜜 某氏 媒体 謀略 装填 訃報 思い煩う 遠征 栄冠 冥土 不運を呪う 臭いを嗅ぐ 糾合 零下

話し合いを効果的に進める

◎話し合いが効果的に展開するように進行のしかたを工夫する。

論点を整理する

- ・ 意見が分かれたときには、それぞれの意見の共通点と相違点を確認し、何について話し合うべきか（論点）を確認する。
- ・ 論点が複数ある場合には、全体に関わる大きな論点から、より具体的な論点へと話し合いを進めるように意識する。

話し合いの展望をもつ

- ・ 話し合いの目的やこれまでの方向、進み具合や制限時間などを踏まえ、これからの展開を考える。

話し合って提案をまとめよう

◎課題の解決に向けて互いの考えを生かし合う。

【語彙・表現】 ブレーンストーミング

観点を立てて分析する

◎観点を立て分析的にものを見る練習をする。

上達のポイント

- ・ 物事の役割や目的を踏まえ、重要だと思ふことを観点として立てる。
- ・ 観点ごとに観察したり類似のものと比べたりして、特徴を分析する。

説得力のある文章を書こう  
批評文を書く

◎ 論理の展開や表現のしかたを工夫し、説得力のある文章を書く。

【批評するときの言葉】 視点 価値観 発想 背景 テーマ 効果 根拠 意義 意味づけ 変化 転換 象徴 思考 構造 段階  
イメージ 共感 固定観念 示唆 インパクト メッセージ性 意外性 時代性 関連性 必要性 問題性

# 日本語(国語)【中3】12月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中3 12月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 【S1】 31：8 【S4】 19：8 【S3】 9：9 【S4】 2：7	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
初恋	<p>◎言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。</p> <p>【S1/2】 七五調の文語定型詩の形式を踏まえ、言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。</p> <p>【S3】 語句や表現に込められた意味を読み取る。</p> <p>【S4】 「恋」をキーワードに各連を読み取る。</p>
<p>初恋 島崎藤村</p> <p>まだあげ初めし前髪の 林檎のもとに見えしとき 前にさしたる花櫛の 花ある君と思ひけり</p> <p>やさしく白き手をのべて 林檎をわれにあたへしは 薄紅の秋の実に 人こひ初めしはじめなり</p> <p>わがころなきためいきの その髪の毛にかかるとき たのしき恋の盃を 君が情に酌みしかな</p> <p>林檎島の樹の下に おのづからなる細道は 誰が踏みそめしかたみぞと 問ひたまふこそこひしけれ</p>	
<p>文法への扉 2 「ない」の違いがわからない？</p>	<p>◎ 2年までに学習した文法の知識を確かめ、理解を深める。</p> <p>【S1】 教材文を読む。</p> <p>【S2】 文法的な観点から言葉について考察することの意義を確認する。</p> <p>【S3】 導入の課題に取り組み、3つの「ない」の違いについて考える。</p>

【S4】文法2「文法のまとめ」の問題に取り組む。

【語彙・表現】

打ち消しの意味を表す助動詞

- ①「道がわからない。」→「道がわからぬ」
- ②「地図もない。」→「地図もぬ。」

エルサルバドルの少女ヘスース

◎ ヘスースの生き方や考え方について、心引かれる部分を挙げて話し合う。

【新出漢字】 是非 主翼 凄絶 羅列 策を弄する

【新出音訓】 和む（なごむ） 辞める（やめる）

季節のしおり 冬

◎ 冬の季語や、冬の情景を詠んだ和歌や俳句などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。

駒とめて袖うちはらふ陰もなし  
佐野のわたりの雪の夕暮 藤原定家

あさぼらけ有明けの月と見るまでに  
吉野の里に降れる白雪 坂上是則

去年今年貫く棒の如きもの 高浜虚子

冬の季語

虎落笛 冬の強風が建物や竹垣などに吹きつけて発する、笛のような音。

山眠る 冬の山が、静かに眠るように見えること。春に「山笑う」、秋に「山粧う」がある。

小春日和 旧暦10月を小春といい、ほぼ11月に当たる。その時期の暖かい日和のこと。

# 日本語(国語)【中3】1月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中3 1月 ユニット・指導内容・ステップ	
【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 <b>【S1】 31：8</b> <b>【S4】 19：8</b> <b>【S3】 9：9</b> <b>【S4】 2：7</b>	
ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
誰かの代わりに	<p>◎現代社会の可能性や困難、自分の生き方について考え、意見をもつ。 ◎文脈における語句の効果的な使い方や表現の工夫に注意して論理の展開のしかたを捉え、内容の理解に役立てる。</p> <p><b>【S1】</b> 全文を通読する。 <b>【S2】</b> 本文を読んで気になったところや共感したところを話し合う。 <b>【S3】</b> 抽象的な語句に着目して読みを深める。 <b>【S4】</b> 言葉の言い換えや具体例を用いて説明している内容を整理し、筆者の主張をたどる。</p>
<p>【語彙・表現】 封建制 保障 インディペンデンス インターディペンデンス 誤解 理解・曲解 リスポンシビリティ 協同 課す 免除 格闘</p>	

他学年との縦断的指導内容	他教科との横断的指導内容
<p>※ 日本の文化 ※ 季節(四季)の行事など ※ 漢字練習 ※ 朗読</p> <p>※ アニメーション ※ 語い(ものの名前など) ※ 文、文型練習 ※ 早口ことば一小1</p> <p>※ 擬声語・擬態語一小3 ※ 慣用句一小4 ※ ことわざ一小4 ※ 故事成語一小4</p>	<p>● 『社会科』 一世界の国々、民族衣装、国旗、祝日 ● 『生活科』 一季節の「生きもの」「植物」「行事」 ● 『理科』 一季節と生きもの(植物・生物など) ● 『理科』 一星座</p>

# 日本語(国語)【中3】2月 指導カリキュラム (日本語テキスト・指導内容・指導単元)

日本語(国語) 中3 2月 ユニット・指導内容・ステップ

【ユニット モジュール配分比率】 ステップ：現学年 **【S1】 42：10** **【S2】 25：11** **【S3】 12：12** **【S4】 3：13**

ユニット[観点]・日本語テキスト	指導内容
わたしを束ねないで	<p>◎詩における語句の効果的な使い方や表現の工夫に注意して読み、自分の可能性や生き方などについて考え、自分の意見をもつ。</p> <p><b>【S1】</b> 詩を通読する。  <b>【S2】</b> 特徴的な言葉や表現の工夫などについて気づいたことを話し合う。  <b>【S3】</b> 繰り返し使われる言葉や比喻表現などを抜き出し、気づいたことを述べ合う。  <b>【S4】</b> 詩に込められた作者の思いを読み取り、その思いを自分と照らし合わせて考える。</p>
<p>わたしを束ねないで</p> <p>わたしを束ねないで          あらせいとうの花のように          白い葱のように          束ねないでください わたしは稲穂          秋 大地が胸を焦がす          見渡すかぎりの金色の稲穂</p> <p>わたしを止めないで          標本箱の昆虫のように          高原からきた絵葉書のように          止めないでください 私は羽撃き          こやみなく空のひろさをかいさぐっている          目には見えないつばさの音</p> <p>わたしを注がないで          日常性に薄められた牛乳のように          ぬるい酒のように          注がないでください わたしは海          夜 とほうもなく満ちてくる          苦い潮 ふちのない水</p> <p>【新出漢字】 稲 昆</p>	<p>新川和江</p> <p>わたしを名付けないで          娘という名 妻という名          重々しい母という名でしつらえた座に          坐りきりにさせないでください わたしは風          りんごの木と          泉のありかを知っている風</p> <p>わたしを区切らないで          , や・いくつかの段落          そしておしまいに「さようなら」があったりする手紙のように          こまめにけりをつけないでください わたしは終りのない文章          川と同じに          はてしなく流れていく 拡がっていく 一行の詩</p>

漢字3  
漢字のまとめ

◎2年生までに学習した漢字に加え、その他の常用漢字のだいたいを読み、適切に使い慣れる。  
【S1/2】練習問題に取り組む。  
【S3】漢字の総まとめとして、漢字の意味や読み方などについて調べ、適切に使い慣れる。

1 次の熟語を読もう。また、      線部の漢字と同じ部首のものを〈 〉から選ぼう。

- ①名簿 ②鍋釜 ③才媛 ④暫時 ⑤囚獄 ⑥丘陵 ⑦裕福 ⑧邦人 ⑨尿素 ⑩楽譜  
〈降 鎌 囚 姫 論 屋 郷 暮 筆 補〉

2 次の      線部の漢字と同じ読みをするものを、〈 〉から選ぼう。

- |                     |                |             |             |
|---------------------|----------------|-------------|-------------|
| ①貴重 <u>な</u> 体験をする。 | 〈重荷 八重桜 尊重 重視〉 | ②神経を研ぎ澄ます。  | 〈神主 神聖 神宮〉  |
| ③早春の気配を感じる。         | 〈早速 早寝 早熟〉     | ④委員長に任命する。  | 〈宿命 寿命 命綱〉  |
| ⑤現役引退を示唆する。         | 〈役職 使役 役柄〉     | ⑥せみが羽化する。   | 〈千羽鶴 羽毛 羽衣〉 |
| ⑦父兄が同伴する。           | 〈兄嫁 長兄 義兄弟〉    | ⑧初夏を思わせる気温。 | 〈夏至 夏山 晩夏〉  |
| ⑨俳優の声色をまねる。         | 〈名声 声高 小声〉     | ⑩京浜工業地帯     | 〈京都 京阪 上京〉  |

3 次の      線部の言葉をアは音、イは訓で読もう。

- |             |            |                |            |
|-------------|------------|----------------|------------|
| ①ア 眼科に通う。   | イ 眼を見開く。   | ②ア 大会の日程が決まる。  | イ 身の程を知る。  |
| ③ア 鋼鉄の扉。    | イ 鋼のような肉体。 | ④ア 一朝一夕にはできない。 | イ 夕立が降る。   |
| ⑤ア 野球を観戦する。 | イ 勝ち戦になる。  | ⑥ア 耳鼻科に行く。     | イ 鼻歌を歌う。   |
| ⑦ア 牧場で馬に乗る。 | イ 緑の牧場。    | ⑧ア 黄金時代を築く。    | イ 黄金色に実る麦。 |

4 同じ音をもつ〈 〉の漢字から、□に合うものを選ぼう。

- |             |                    |            |                 |
|-------------|--------------------|------------|-----------------|
| ①ハン 〈伴・畔〉   | 休日は専ら湖□で釣りをする。     | ②バッ 〈伐・闕〉  | 戦後、財□の解体が行われた。  |
| ③タイ 〈胎・怠〉   | □児の健康状態を診る。        | ④ヘイ 〈弊・幣〉  | 日本最古の貨□が出土した。   |
| ⑤ガイ 〈効・該〉   | アンケートの□当する欄に丸を付ける。 | ⑥カッ 〈褐・喝〉  | 緑のない□色の大地が広がる。  |
| ⑦カッ 〈割・轄〉   | 各官庁の管□する仕事を調べる。    | ⑧モウ 〈盲・妄〉  | 相手チームの作戦の□点をつく。 |
| ⑨ティ 〈庭・艇・廷〉 | 目撃者が法□で証言する。       | ⑩ユ 〈諭・癒・愉〉 | 病気が完全に治□する。     |

5 次の熟語のグループと同じ熟語の構成のものを、〈 〉から選ぼう。

- ①豊富・皮膚・( ) ②表裏・伸縮・( ) ③市営・私製・( ) ④花園・沃土・( ) ⑤受講・匿名・( )  
〈水槽 旋回 清濁 殉教 円高〉

6 次の熟語を読み、〈 〉から音訓の組み合わせが同じものを選ぼう。

- ①戦慄 [ ] ( ) ②渋柿 [ ] ( ) ③朱色 [ ] ( ) ④荒行 [ ] ( )  
〈ア酷暑 イ茶臼 ウ蚊柱 エ瓦版〉

7 四字熟語になるように、( ) に合う言葉を〈 〉から選ぼう。また、できた四字熟語を読もう。

- ①竜頭 ( ) ②深山 ( ) ③勇猛 ( ) ④時期 ( ) ⑤傲岸 ( ) ⑥拍手 ( )  
〈尚早 果敢 不遜 幽谷 喝采 蛇尾〉

8 同じ訓をもつ漢字から、      線部に合うものを選んで書こう。

- ①〈訪・尋〉 ア 学生寮に住む兄をたずねる。

- ② 〈搾・絞〉 イ 友達に明日の予定をたずねる。  
ア 雑巾をしぼる。  
イ やぎの乳をしぼる。  
③ 〈技・業〉 ア 柔道のわざが決まる。  
イ ピエロが軽わざを披露する。  
④ 〈売・得〉 ア 彼の話は教訓に富み、うるところが大きい。  
イ 取れたての野菜を地元でうる。

9 次の 線部に合う熟語を 〈 〉 から選ぼう。

- ① ふきゅうの名作を読み、感動する。 〈普及・不朽〉  
② 音楽の授業でどうようを歌う。 〈童謡・動揺〉  
③ 細かいいしょうが施された器。 〈意匠・衣装〉  
④ 開発計画にへんこうが生じる。 〈変更・偏向〉  
⑤ 絵画のコンクールでひょうしょうされる。 〈表彰・表象〉  
⑥ 地産地消をしょうれいする。 〈症例・奨励〉  
⑦ しゅうちのあまり、赤面する。 〈羞恥・周知〉

10 次の 線部の言葉を 〈 〉 の漢字を使って書こう。

- ① 新鮮な海のさちに、はしが進む。 〈幸・箸〉  
② 宗家の先生から、おほめの言葉をたまわる。 〈褒・賜〉  
③ 花のかおりをかいで気分がやわらいた。 〈香・嗅・和〉  
④ あたりはおごそかな空気につつまれた。 〈辺・嚴・包〉  
⑤ 各地で花がさき、春もさかりだ。 〈咲・盛〉

11 次の 線部の漢字を読もう。

- |                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| ① 貪欲に学ぼうとする姿勢。 [ ] | ② 応募の必須条件を確認する。 [ ]    |
| ③ 昼食に麵類を食べに行く。 [ ] | ④ 恣意的な判断を批判する。 [ ]     |
| ⑤ この方法は汎用性が高い。 [ ] | ⑥ クラスの親睦を深める。 [ ]      |
| ⑦ 辛辣な意見を聞く。 [ ]    | ⑧ 悪天候が続き、憂鬱な気分になる。 [ ] |
| ⑨ 怨念にまつわる伝説。 [ ]   | ⑩ 船舶の操縦免許を取得する。 [ ]    |
| ⑪ 収賄の疑いがかかる。 [ ]   |                        |

12 都道府県名の漢字を読もう。

- |            |           |            |
|------------|-----------|------------|
| ① 茨城県 [ ]  | ② 栃木県 [ ] | ③ 埼玉県 [ ]  |
| ④ 神奈川県 [ ] | ⑤ 岐阜県 [ ] | ⑥ 鹿児島県 [ ] |

【新出漢字】 簿 鍋 媛 暫 囚 陵 裕 邦 尿 譜 鎌 唆 鶴 畔 閥 胎 幣 該 褐 轄 盲 艇 癒 膚 沃 匿 槽  
 旋 慄 柿 朱 酷 白 蚊 瓦 竜 尚 敢 遜 幽 采 察 搾 巾 朽 謡 匠 更 彰 奨 羞 箸 褒 賜 貧 須 麵  
 恣 汎 睦 辣 鬱 怨 舶 賄 茨 栃 埼 奈 卓 鹿

## いろいろな文章形態

文章には多様な形態がある。伝えたい内容に合った形態を選んだり、形態に合った内容を書いたりできるようになる。

### 説明・記録・報告

事実や事柄を正確に伝える

- 【説明文】 事実や事柄について、何かを解き明かしたり説明したりする文章。
  - 【記録文】 自分の体験や見聞きした事実を時間の経過などに即して書いた文章。
  - 【報告文】 体験や調査結果を相手にわかるように知らせた文章（レポートなど）。
  - 【報道文】 新聞や雑誌など、出来事を広く知らせる文章。
- ▽他に、解説文・案内文・紹介文・広告文・日誌・議事録・パンフレットなどがある。

### 意見・主張

根拠に基づいて考えを伝える

- 【意見文】 ある事柄についての考えを、立場や根拠を明確にして述べた文章。
  - 【批評文】 ある事柄のよさや特性、価値などについて、論じたり評価したりした文章。
  - 【論説】 物事の是非などについての考えを、筋道を立てて述べた文章。
  - 【評論】 物事のよしあしや価値などについて、考えを述べた文章。
- ▽他に、提案書・企画書などがある。

### 感想・心情

感想や気持ちを伝える

- 【感想文】 体験や読書、見聞きしたことなどについて、感想や思いを述べた文章。
  - 【鑑賞文】 表現のしかたや作者の意図などについて、そのよさや作品から受けた印象、感動などを述べた文章。
  - 【随筆】 体験や見聞きしたことなどについて、感想や考えを他の人にもわかるように書いた文章。
  - 【紀行文】 旅行中の体験や感想を振り返って書いた文章。
- ▽他に、手紙・日記などがある。

### 物語・詩歌

思いを表現・創作する

- 【物語】 見聞きしたり想像したりしたことを土台に、まとまった話にした文章。
  - 【詩】 自然や生活などがら起きた感動を、リズムをもつ言葉で表現したもの。
  - 【短歌】 五・七・五・七・七の五句三十一音の定型詩。
  - 【俳句】 五・七・五の十七音に「季語」が入った定型詩。
  - 【脚本】 舞台説明を記した「ト書き」と、人物の言葉「せりふ」で構成された文章。
- ▽他に、小説・川柳などがある。

学習のための用語一覧

話すこと／聞くこと／書くこと

あ	アンソロジー	意見 (文)	引用																	
か	会議	課題解決	鑑賞文	感想文	紀行文	脚本	キャッチコピー	記録文	グループディスカッション											
	合意 (形成)		構成メモ (スピーチ)	根拠																
さ	質疑応答	紙面構成	取材メモ	シンポジウム	推敲	随筆	スピーチ	説明文												
た	短歌俳句詩	提案	ディベート	テーマ																
は	パネルディスカッション		批評文	評価	評論	ブレインストーミング	文章構成	編集	報告文	報道文										
ま	見出し	物語																		
ら	論説																			

読むこと／読書と情報

あ	意見と事実	インターネット	韻文																	
か	回想	語り手	季語	近代文学	近代詩	構成	小見出し													
さ	散文	社説	情景描写	序論	本論	結論	事例	心情	人物像	ソーシャルメディア										
た	題名	段落	中心的	付加的な部分	登場人物の設定	読書記録														
は	俳句	場面	比較	批評	伏線															
ま	マスメディア	メディア																		
や	やま場	要約	要旨																	
ら	論説	論理の展開																		

伝統的な言語文化

あ	東歌																			
か	掛詞	歌舞伎																		
さ	防人歌	浄瑠璃	序詞																	
た	長歌																			
な	人形浄瑠璃(文楽)																			
は	反歌	文語																		
ま	枕詞																			
わ	和歌																			

## 三年間の言葉の力を確かめよう

### 話すこと・聞くこと

- ・日常生活や社会生活の中で気になる事柄を書き留める
- ・情報を的確に聞き取り、メモを取る
- ・話の要点や順序を整理してメモを取る
- ・発言者の意見を評価しながら聞く
- ・事実と意見の関係に注意して、わかりやすい話の構成を工夫する
- ・話の中心と付加的な部分に注意して構成を考える
- ・自分の体験や知識を整理して、話す内容を決める
- ・声の大きさや速さ、間の取り方に気をつけて話す  
順序や構成を考えてスピーチをする  
相手や目的に応じたスピーチをする  
相手の反応を確かめたり図表や資料を効果的に活用したりして、興味を引く発表や提案をする（ポスターセッション）・（プレゼンテーション）
- ・話題や方向を捉えて話し合う（グループディスカッション）
- ・相手の考えを踏まえ、尊重しながら発言する  
話し合って考えを広げる（パネルディスカッション）  
話し合って合意を形成する
- ・感想や意見を伝え合い、自分の考えを広げる  
友達の発表を自分の考えと比べたり体験に引きつけたりして評価し、ものの見方や考え方を深める

### 書くこと

- ・日常生活や社会生活の中で気になる事柄を書き留める
- ・辞典・事典やインターネットを使って調べる  
観点を立てて情報を集め、整理する
- ・書き方を工夫してノートを取る
- ・後で生かせる記録のしかたを工夫する  
多様な方法で情報を集め、考えをまとめる  
文章の形態を選んだり多様な素材を活用したりして、魅力的な紙面を編集する
- ・観点を立て、感じたことを整理する（鑑賞文）
- ・観点を立て、分析的に物事を見る（批評文）
- ・読み手のことを考えてわかりやすい案内文を書く

- 調べたことを正確に報告する（レポート）
- 根拠を明確にして鑑賞文を書く・
- 構成や表現を工夫して印象深く伝える
- 気持ちや用件が伝わるように手紙を書く
- 根拠を明確にして意見文を書く
- 描写を工夫して書く（創作）
- ・内容や目的に適した文章の形態を選んで書く
- 論理の展開を工夫し、説得力のある批評文を書く
- ・文章を読み合い、読みやすくしたり友達の書き方を参考にしたりする
- ・構成や情報の活用のしかたを助言し合い、考えを広げる
- ・構成や内容を推敲し、主張を明確に伝える
- 友達の文章を自分の考えと比べたり体験に引きつけたりして評価し、ものの見方や考え方を深める

#### 読むこと 文学的な文章

- ・文脈の中での語句の意味を捉える
- ・作品を読み深め、印象に残った表現を発表する
- ・心情を表す語句に着目して読む
- ・表現のしかたに着目して読む
- ・言葉の意味を考えながら作者の思いを捉える
- ・表現の特徴、作者の思いなどを捉え、朗読する
- ・言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する

冒頭と結末に着目して人物の変化を捉える  
 場面の展開に着目して人物の変化を読み取る  
 時間の経過や出来事に着目する

- ・構成や場面展開の工夫に着目する
- 場面や登場人物の設定を考える

- 人物の行動や情景描写から心情を読み取る  
 語り手に着目して読む  
 登場人物の関係を捉える  
 心情の描き方に着目する  
 人物像の変化を捉える
- ・登場人物のものの見方や考え方を捉える
  - ・表現の特徴について考えをもつ
  - ・表現の工夫について根拠を明確にしてまとめる
  - ・筆者の考えを読み取り、自分の考えを深める
  - 物語や小説を批評する

- ・表現に着目し、社会について考えを深める
- ・作者の思いを捉え、自分の可能性について考える

#### 読むこと 説明的な文章

- ・文脈の中での語句の意味を捉える
- ・抽象的な概念を表す語句に着目する
- ・言葉について自分の考えを深める
- ・言葉に対する筆者の考えを読み取り、自分の考えを深める

段落の役割に着目する

文章の構成に着目する

筆者の考えの筋道を確認して要旨を捉える

論の展開に着目して筆者の主張を捉える

論理の展開を捉える

事実と意見の関係に注意して読む

事実と筆者の考えの示し方の特徴を捉える

筆者の観点や言葉の用い方に着目して評論を読む

説明の順序に着目する

- ・筆者の考えを基に、自分のものの見方や考え方を広げる
- ・筆者の考え方について自分の考えをもつ  
自分の知識や体験と比べて考える  
論説を比較し評価する
- ・人物の生き方や考え方に触れ、考えを深める
- ・筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の生き方について考える

抽象的な言葉 思考の幅を広げるために

抽象的な言葉は、考えを広げたり深めたりするための道具となる。社会生活の中で気になる言葉を見つけたら、意味を正確に把握しておこう。

人間（思考・自己）について 考えるキーワード

思想 思索 哲学 観念 理念 概念 認識 推理 推論 類推 帰納 演繹 批評 批判 評価 価値観  
先入観 固定観念 自我 自己 $\leftrightarrow$ 他者 アイデンティティー 主観 $\leftrightarrow$ 客観 意識 精神 心理 自覚 自意識  
感受性 感覚 感性 理性 知性 教養 想像 イメージ ヒューマニズム 信仰 愛

社会・経済・文化について 考えるキーワード

共同体 コミュニティー 国家 市民 大衆 制度 システム ネットワーク 権利 $\leftrightarrow$ 義務 福祉 公共 公益  
倫理 道徳 モラル 自助 共助 公助 防災 減災 ユニバーサルデザイン バリアフリー ノーマライゼーション  
国際 グローバル 地域 ローカル 市場 需要 $\leftrightarrow$ 供給 生産 $\leftrightarrow$ 消費 媒体 メディア マスメディア  
伝統 $\leftrightarrow$ 革新 風俗 風習 芸術 美術 アート 学術 学問

自然・環境について 考えるキーワード

自然科学 現象 物質 エネルギー 有機（物） $\leftrightarrow$ 無機（物） 生命 遺伝子 進化 天体 天文 気象  
地理 風土 環境 資源 共生 共存 生態系 エコロジー 生物多様性 絶滅危惧種 保護 保全 開発  
循環 リサイクル 地球温暖化 持続可能性 サステナビリティ

## 話し合いの方法

話し合いには、さまざまな方法がある。目的や話し合う人数に応じて、適切な方法を選ぼう。

『何かを決めるときには』

### 会議（全体）

【特徴】 決定や課題解決など、合意を形成しながら集団としての結論を導く話し合い。

【手順】

司会と書記を決める。

① 議題を提示する。

② 議題について審議する。

③ 採決を行う。（何かを決定する場合、挙手や投票などで採決を行う。）

言決定事項を確認する。

【議題の例】

・学級目標の決定。

・学校生活で問題だと思うこととその解決策。

『考えを広げたり深めたりするときには』

### ブレインストーミング（グループ）

【特徴】 アイデアを広げるための話し合い。

五～七名で行う。案をたくさん出すのが目的なので、思いついたことを自由に述べ、互いの案を否定しない。

【手順】

① 司会と書記を決め、議題を確認する。

② 参加者は簡潔にアイデアを述べる。全員がなるべく多く提案する。

③ 提案を整理・分類する。

【議題の例】

・学校生活をより快適にするアイデア。

・今日からできる省エネルギーの方法。

### パネルディスカッション（全体）

【特徴】 立場の異なるパネリスト（発表者）が討論し、そこにフロア（聴衆）が加わって考えを広げる。

【手順】

① 全体で論題を確認し、各立場のパネリストが意見を発表する。

② パネリストどうしが、フロアの前で討論し、論点を明らかにする。

③ フロアも加わり、議論を深める。

【論題の例】

- ・ ニュースを知るためのメディアとして最も優れているものは。
- ・ 流行語の使い方。

グループディスカッション

【特徴】 グループ討議の一つ。四～六名に分かれて議題について話し合い、代表者が結果を全体に報告する。全体での議論に一人一人の意見を反映させやすい。何かを決めるためだけでなく、解決策を探ったり考えを深めたりするために行う場合もある。

【手順】

- ① グループごとに司会と書記を決める。
- ② グループ全員が順に意見を述べる。
- ③ グループの代表者が結果を全体に報告する。

【議題の例】

- ・ 国語の年間目標。
- ・ 転任する先生への感謝の伝え方。

シンポジウム（全体）

【特徴】 あるテーマについて、複数の専門家（発言者）が意見を述べ、フロアは質疑応答を通してテーマに対する考えを広げる。

【手順】

- ① 発言者の紹介とテーマの確認をする。
- ② 各発言者が意見を発表・解説する。その後、発言者どうして討論する。
- ③ フロアは質疑応答を通して、自分の考えを広げたり、深めたりする。

【議題の例】

- ・ 中学生の部活動の意義。
- ・ 商店街をより活性化させる方法。

ディベート（全体）

【特徴】 論題に対して、対立する二つの立場から相手を説得し合う。立場を絞ることで、意見を出しやすくなる。

【手順】

- ① 肯定・否定の二つのチームに分ける。
- ② 両者が自らの立場と意見を述べる。
- ③ チーム内で相手への反論を考える。
- ④ 相手の意見に反論を行う。
- ⑤ 両者が最終的な意見を述べ、聴衆が勝敗を判定する。

【論題の例】

- ・ 若者言葉は、日本語の乱れである。